

平成28年5月17日

日本学術会議 基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同  
動物科学分科会、自然史財の保護と活用分科会  
日本学術会議 基礎生物学委員会・統合生物学委員会・農学委員会合同  
植物科学分科会  
日本学術会議 基礎生物学委員会・統合生物学委員会・地球惑星科学委員会合同  
自然史・古生物学分科会

### (提言) 「国立自然史博物館設立の必要性」

#### 1 現状及び問題点

人類は地球環境に依存して生きてきた一方、自ら地球環境を破壊してきた。地球環境の研究は、岩石・鉱物学、地質学、古生物学、人類学、分類学、系統学、生態学、生物地理学、進化学などの多様な分野を含む自然史科学が担ってきた。しかし、現在の自然史科学の研究体制では、最近急速に進行している地球環境破壊の実態を把握し、近未来に予想される事態へ対応することは困難であり、人類の持続可能性の確立は遠のくばかりである。

#### 2 提言の内容

地球環境を守り、人類の存続をはかるという究極目的を果たすために取り得る重要手段として、60年近く前からの学術会議の主張を引き継ぎ、国立自然史博物館を日本に設立すべきである。国立自然史博物館は、新しい運営・研究体制を敷く研究教育拠点として、地球環境の変遷を様々な時間・空間スケールで記録している大量の自然史標本と自然史データを収集・整理・活用して“ビッグデータ自然史科学”を創出し、世界の自然史科学を先導する。さらに、その研究成果から地球環境との調和を取り戻す自然観を新しく構築してその普及をはかると共に、地球環境を守るための様々な応用研究や政策の立案に貢献する。設立地は、自然環境が南北で大きく異なる国土と、予想される東南海地震による標本喪失のバックアップ等を考慮し、日本列島の南部と北部の双方が望ましい。